

平成 22(2010)年度
沖縄県ホストファミリーバンク推進事業

(海外県系人子弟ホームステイ受入事業)

(海外県人会ホームステイ派遣事業)

報告書



沖縄県観光商工部交流推進課

(受託)沖縄NGOセンター

ウチナーンチュは、20世紀初頭、南北アメリカ大陸を中心に世界各地へ雄飛し、移住者とその子弟は各界各層で活躍しております。沖縄県では、この世界に広がるウチナーンチュのネットワークを有効に活かし、ホームステイを通して、海外と県内のウチナーンチュの若い世代の双方向の交流を推進する「ホストファミリーバンク推進事業」を実施しております。

これは、2006年10月に開催された、「第4回世界のウチナーンチュ大会」の際の、海外県人会・民間大使会議において、「ホストファミリーバンク事業」の推進が決議されたことによるものです。

現在、海外の沖縄県系人社会では、時代の変遷と世代を重ねるにつれ母県沖縄に対する認識と関心が薄れ、次代を担う人材の育成が課題となっており、他方県内の若い世代には、沖縄の近・現代史の重要な要素を成す海外移民の歴史に学びこれを受け継いでいくことが求められていることが背景にあります。

今年の海外の県系人子弟を受け入れる「海外県系人子弟ホームステイ受入事業」では、アメリカから3名の若者が参加し、合わせて6世帯の県内ホストファミリーに快く受け入れて頂きました。また、若い世代を海外県人会のもとへ派遣する「海外県人会ホームステイ派遣事業」では、初めて南米派遣が実現し、受入県人会である在亜沖縄県人連合会には、参加者7名を我が子の如く接して頂きました。ホストファミリーの皆様及び視察研修等各面に亘って御協力を賜りました関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

参加者は、移民の歴史を学ぶとともに世界のウチナーンチュを知りました。また現地の異文化に接触することで、自国及び自身を見つめ、さらにホストファミリーの温かさに感動を覚えた11日間であったと思われま

す。この事業に参加した10名の皆さんには、これを一過性のものにする事なく、相互のコミュニケーションを保ちつつ友好の絆を深め、国際的な理解と視野を更に広げ、将来のウチナーネットワークを継承・発展させ、国際交流、協力の担い手として活躍することを期待しています。

この度の「ホストファミリーバンク推進事業」に参加した学生の皆様を始め各県人会及びホストファミリーの皆様から寄せられた御意見を踏まえつつ、事業の成果を検証し、更なる内容の充実を期して参りたいと思います。関係者の皆様には、本県の国際交流・協力事業の推進に尚一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

平成22(2010)年11月

沖縄県観光商工部交流推進課
課長 瀬川 義朗

目次

沖縄県ホストファミリーバンク推進事業

- 1. 事業概要1
- 2. 事業経過2

海外県系人子弟ホームステイ受入事業 報告

- 3. 受入参加者プロフィール3
- 4. 受入日程4
- 5. 受入アンケート結果5
- 6. 受入・お世話になった皆様10
- 7. 受入事業・思い出の一コマ11

海外県人会ホームステイ派遣事業 報告

- 8. 派遣参加者14
- 9. 派遣日程15
- 10. 事前事後研修20
- 11. 派遣実施体制21
- 12. 派遣参加者感想22
- 13. 派遣アンケート結果
 - (1)参加者28
 - (2)ホストファミリー31
- 14. 思い出の一コマ34
- 15. ホストファミリーバンク登録県人会36
- 16. 編集後記37

事業概要

沖縄県海外県系人ホームステイ受入プログラム

本プログラムは、海外県系人子弟等が沖縄県内におけるホームステイを通して、県民との交流や沖縄の歴史・文化・自然などの体験学習、学校への体験入学、ルーツの地域との交流により、母県・沖縄に対する理解と絆を深めるとともに、海外県系人社会の発展とウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献することを目的としています。

実施期間

2010年6月16日(水)～2010年6月26日(土) 10泊11日

参加者受入人数:3名

- ・ ジェシー マカウスキー (21歳 男性 アメリカ・オハイオ)
- ・ ケイトリン タウナー (20歳 女性 アメリカ・ハワイ)
- ・ ジョーン メデーロス (16歳 男性 アメリカ・ハワイ)

プログラム随行者

岸本 佳子 (沖縄NGOセンター)

宮城 康一郎 (沖縄県観光商工部交流推進課)

海外県人会ホームステイ派遣事業

本県の若い世代が海外の県人会でホームステイ及び諸活動を通して、海外へ雄飛したウチナーンチュの歴史や生活を学び、派遣先国地域や県人会コミュニティ等との交流を経験することで、世界に広がるウチナーネットワークの認識を深め、国際感覚に優れたウチナーネットワークを担う次世代の育成を図ることを目的とする。

実施期間

2010年8月16日(月)～2010年8月29日(日) 10泊14日

参加人数:7名(大学生3名、高校生4名)

プログラム随行者

宮城 康一郎(沖縄観光商工部交流推進課)

事業実施機関

特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター

〒901-2211 沖縄県 宜野湾市宜野湾 3-23-52 1F

電話 098-892-4758


FAX 098-941-6812


事業経過


日程	内容	場所
2月18日	参加者募集開始(受入)	
3月	受入ホストファミリー募集案内開始	
4月9日	参加者応募〆切(受入)	
4月20日	参加者決定(受入)	
4月20日	第1回参加者募集開始(派遣)	
5月21日	ホストファミリー決定(受入)	
5月28日	第1回応募〆切(派遣) (5名応募)	
6月2日	第1回応募者面接(派遣)	沖縄県庁
6月4日	ホストファミリー説明会(受入)	沖縄県庁
6月9日	第2回参加者募集開始(派遣)	
6月11日	第1回応募者内定通知	
6月16日～26日	海外県系人子弟ホームステイ受入事業 実施期間	
6月25日	受入プログラム終了式	JICA 沖縄国際センター
6月21日	第2回応募〆切(派遣)	
6月24日	第2回応募者面接(派遣)	沖縄県庁
6月28日	第2回応募者内定通知(派遣)	
6月30日	参加者決定通知(派遣)	
7月10日	保護者説明会 第一回オリエンテーション	JICA 沖縄国際センター
7月24日	第二回オリエンテーション	JICA 沖縄国際センター
8月7日	第三回オリエンテーション	JICA 沖縄国際センター
8月16日	アルゼンチン・ブエノスアイレスへ向け出発	那覇空港～成田空港 ～ヒューストン国際空港 ～アルゼンチン・エセイサ空港
8月17日	アルゼンチン・ブエノスアイレス到着	
8月27日	日本へ向け出発	アルゼンチン・エセイサ 空港～ヒューストン国際 空港～成田空港～那 覇空港
8月29日	沖縄・那覇到着	
9月11日	事後研修・報告会	JICA 沖縄国際センター

海外県系人子弟ホームステイ受入事業 報告

受入参加者プロフィール

氏名・出身国	ジェシー マカウスキー (アメリカ・オハイオ)	
生年月日	1988年10月28日(21歳)	
在学中の学校	オハイオ大学 3年	
親(親族)の出身地	那覇市(母)、今帰仁村(祖母)、宮古城辺(祖父)	
趣味・特技	マーチングバンド(チューバー奏者歴8年)、三線、ダンス	
ホームステイで期待すること	沖縄の家族の背景にあるもの、どのような生き方をしてきたのか学びたい。 沖縄人としてのアイデンティティをしっかりと理解したい。	

氏名・出身国	ケイトリン タウナー (アメリカ・ハワイ)	
生年月日	1989年11月1日(20歳)	
在学中の学校	ハワイ大学マノア校 3年生	
親(親族)の出身地	具志川市(現うるま市)	
趣味・特技	琉球国祭太鼓、ガーデニング、食べること	
ホームステイで期待すること	日本語能力を高めたい、沖縄の人々から色々なことを教わり、沖縄の人がしていること、食べてる物など、体験したい	

氏名・出身国	ジョーン メデーロス(アメリカ・ハワイ)	
生年月日	1994年2月20日(16歳)	
在学中の学校	ワイメア高等学校 10年生	
親(親族)の出身地	具志川市(現うるま市)	
趣味・特技	音楽、ウクレレ、コンピューターゲーム、読書	
ホームステイで期待すること	祖先が育った美しい沖縄を実際にこの目で見てみたい	

■ホスト ファミリー名簿

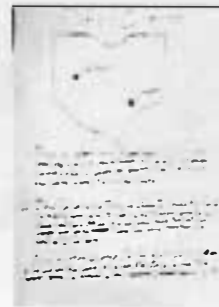
No.	ホスト ファミリー名	居住地	ホームステイ者
1	川畑 康信 さん宅	西原町	ジェシー マカウスキー
2	喜屋武 幸代 さん宅	西原町	
3	比嘉 裕子 さん宅	那覇市	ケイトリン タウナー
4	伊波 由雄 さん宅	那覇市	
5	宮城 とも子 さん宅	那覇市	ジョーン メデーロス
6	野添 智子 さん宅	沖縄市	

全日程プログラム

2010年6月16日(水)～6月26日(土)

月日	時間	内容	場所	担当
6月16日 (水) 1日目	22:30到着 22:35到着 17:30～19:00	ケイトリンとジョン(ハワイ) ジェシー(オハイオ) ゲストの送り	空港 県庁→各ホームステイ先	県、ONC ホストファミリー ホストファミリー
6月17日 (木) 2日目	10:30～12:00 12:00～13:00 ～15:45 16:00～16:15 16:15～17:30	ゲスト県庁集合(公共バス等利用) 歓迎昼食会 参加者オリエンテーション 参事監表敬訪問 国際通り、公設市場、やちむん通り散	各ホームステイ先→県庁 レインボーホテル 参事監室 国際通り、公設市場、やちむん通り	ホストファミリー 県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC
6月18日 (金) 3日目	8:00～8:30 9:00～12:00 14:00～ 17:30～19:00	ゲスト県庁集合(公共バス等利用) 県立那覇西高校訪問・昼食 移動 おきなわワールド 沖縄の伝統工芸品作り体験 玉泉洞 ゲストの送り	各ホームステイ先→県庁 沖縄県立那覇西高校 南城市 おきなわワールド→各ホームステイ先	ホストファミリー 県、ONC、那覇西高校 県、ONC 県
6月19日 (土) 4日目	10:00～13:00	肝高の阿麻和利との交流プログラム	きむたかホール(現地集合)	肝高の阿麻和利
6月20日 (日) 5日目	終日	ホストファミリーと共に過ごす	ホストファミリー宅など	ホストファミリー
6月21日 (月) 6日目	8:00～8:30 11:00～11:30 11:30～	ゲスト県庁集合(公共バス等利用) 本部発→伊江島 伊江島民泊(1泊) 家業体験、ホームステイ	各ホームステイ先→県庁 伊江島	ホストファミリー 県、ONC 伊江島観光協会
6月22日 (火) 7日目	8:30～9:30 9:30～12:00 13:00～13:30 14:30～16:00 17:30～19:00	反戦平和資料館「ヌチドゥ宝の家」 伊江島タッチュー 登山 伊江島発→本部 辺野古テント村訪問 ゲストの送り	反戦平和資料館「ヌチドゥ宝の家」 伊江島タッチュー 辺野古テント村 辺野古テント村→各ホームステイ先	ホストファミリー ホストファミリー 県、ONC 命を守る会 県、ONC
6月23日 (水) 8日目	終日	ホストファミリーと共に過ごす慰霊の日	ホストファミリー宅など	ホストファミリー
6月24日 (木) 9日目	8:00～9:30 10:30～12:00 12:00～14:00 14:00～16:00 17:30～19:00	ゲスト県庁集合(公共バス等利用) 南城市平和ツアー 移動、昼食 佐喜眞美術館での平和ワークショップ ゲストの送り	各ホームステイ先→県庁 南城市玉城アブチラガマ ドライブスルー ジェフ 佐喜眞美術館 佐喜眞美術館→各ホームステイ先	ホストファミリー 県、ONC ONC、アメリカンスクール 県、ONC
6月25日 (金) 10日目	8:00～9:30 10:00～13:00 13:00～14:00 14:00～15:00 15:30～ 18:30～20:30 20:30～	ゲスト県庁集合(公共バス等利用) 首里城ツアー 昼食、移動 瑞泉酒造見学 修了式準備(3時間) 修了式、フェアエル・パーティー ゲストの送り	各ホームステイ先→県庁 首里城 パラダイス・カフェ 瑞泉酒造 JICAニライホール " JICAニライホール→各ホームステイ先	ホストファミリー 県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC 県、ONC、肝高の阿麻和利 ホストファミリー ホストファミリー
6月26日 (土) 11日目		参加者帰国又は親戚宅へ プログラム終了		

ホームステイ参加者アンケート



Jesse Makawski ジェシー マカウスキー

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください。(良かった点、改善すべき点、その他など)

- このプログラム大好きです。自分のルーツを学べること、沖縄の人々と繋がれること、そして沖縄の人たちと交流できることがすごく良かった。もっとこのプログラムを長くしてほしい。

Q2. プログラムを通して沖縄の文化を学んだり、人々との交流を深めることはできましたか？

- 言葉の壁はあっても、それでも沖縄の人々の気持ちを理解することができました。

Q3. 印象に残っているプログラムは？

- 伊江島が一番心に残るプログラムでした。今までの人生のなかで感じたことのない幸せだった。また、ケイトリンとジョンに出会い、新しい2人の親友ができたことも。

Q4. あなたが期待したことはこのホームステイプログラムでどのくらい達成されましたか？

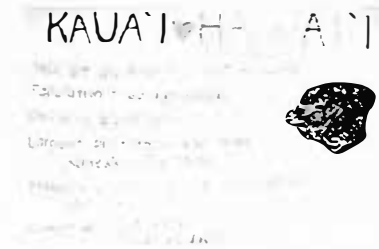
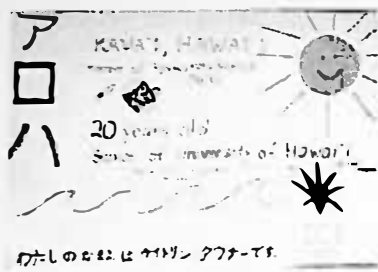
- 110%

Q5. その他事前に学んでおいた方がよかったと思うことはありますか？

- もっと日本語を勉強すべきだった。

Q6. その他、県に対する要望があれば書いて教えてください。

- 大学卒業後に可能な就職の機会などがありましたら、その情報を頂けると非常に嬉しいです。アメリカと沖縄を結び、アメリカの人々へ沖縄がどういうところか見せたいと、心から思っています。県の方々も最高で、ずっとつながってほしいです。



Caitlin Towner ケイトリン タウナー

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください。(良かった点、改善すべき点、その他など)

- ものすごくこのプログラムが大好きです。一つだけ、伊江島の滞在期間を変えてほしいと思った。もっと長かったら良かった。

Q2. プログラムを通して沖縄の文化を学んだり、人々との交流を深めることはできましたか？

- 多くのことを学びました。言葉の壁があるにもかかわらず、コミュニケーションもうまく取ることもでき、また互いに学ぶこともできました。

Q3. 印象に残っているプログラムは？

- 伊江島と肝高の阿麻和利です。エイサーが大好きなので、肝高は当然！伊江島は他ではできないような事を経験することができました。私は、正真正銘沖縄の人なので、都市での生活よりも田舎での生活がいい。

Q4. あなたが期待したことはこのホームステイプログラムでどのくらい達成されましたか？

- +100%

Q5. その他事前に学んでおいた方がよかったと思うことはありますか？

- 適切な服装、基本的な言葉、日常の習慣、様々な場面での適切な振舞い方

Q6. その他、県に対する要望があれば書いて教えてください。

- このようなまたとない、一生に一度の機会を作って頂き本当にありがとうございます。多くの事を学び、たくさんの友だちを作ることができました。この経験は一生心に残るものになると思います。みなさまへの感謝の気持ちをどのように表していいかわかりません。



John Medeiros ジョーン メデーロス

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください。(良かった点、改善すべき点、その他など)

- 今回のプログラムはとても素晴らしい機会でした。このプログラムに関わった皆様に、言葉では表すこのとのできない感謝の気持ちでいっぱいです。一つだけ後悔していることは、日本語が十分に分からなかったこと。

Q2. プログラムを通して沖縄の文化を学んだり、人々との交流を深めることはできましたか？

- すべてのプログラムが楽しかった！(おきなわワールドの)エイサーグループに参加したり、また、首里、阿麻和利、護佐丸の物語を聞いたことは、深く心が温まるものでした。私もこのような沖縄の豊かで深い文化の中にいるということは、とても光栄なことです。自分のルーツに帰る素晴らしさを感じます。

Q3. 印象に残っているプログラムは？

- 反戦平和資料館と佐喜真美術館でのメッセージは特に印象に残っている。また、伊江島、同じように勝連城址も、人々を感激させる肝高の阿麻和利のダンスも素晴らしかった。全てのプログラムで異なった側面に触れることができた。すべてのプログラムが印象的でした。

Q4. あなたが期待したことはこのホームステイプログラムでどのくらい達成されましたか？

- 150%

Q5. その他事前に学んでおいた方がよかったと思うことはありますか？

- 日本語。もう少し沖縄の視点から第2次世界大戦のバックグラウンドを見ていたら、もっとより良いものになったと思う。

Q6. その他、県に対する要望があれば書いて教えてください。

- このプログラムへ関わってくださった皆様、ありがとうございます。みなさんが私の心を大きく開いてくれました。ぜひ、カウアイへも来てください！

ホストファミリーアンケート

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください。

(良かった点、改善すべき点、派遣生に対して要望したいこと、その他)

- ・ 家まで送ってくれるのでたすかりました。
- ・ 沖縄の先人達が勇ましく海外に出かけ住み続けたことに敬意を表したい。さらにその子弟を招いて今の沖縄を知ってもらうことは、とても良いことだと思う。5日間のホームステイは適当だった。予想通り言葉の壁は厚く感じた。でも充実感が残り、引き受けてよかったと思う。
- ・ 短かったのが感想が思い浮かばないです。
- ・ ホストファミリーは初めての経験でしたが、家族にとってとても素晴らしい思い出ができました。5日間では短いような気がしました。ただ滞在先は1ヶ所の方が留学生の子も楽なのでは？
- ・ 息子(二男)が東京で生活しているので、ジェシーが家族の一員として接してくれたので楽しく過ごせました。

Q2. 今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？

- ・ 適当
- ・ 良いと思う
- ・ 時期はいつでもOKです。今回もOKでした。
- ・ 娘の休みが6月23日だけだったので、夏休みの時期でしたら良かったなと言っておりました。

Q3. 今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？(感想を述べてください)

- ・ とてもよかった
- ・ ジョン君はとてもやさしく穏やかで、私たち親戚ににこやかに対応してくれた。三線やカタカナの練習を熱心にし習得した。私たちにはフラダンスや英語を教えてくれた。自ら声をかけて食事の片づけも手伝ってくれた。
- ・ 最良
- ・ とても素てきな娘さんで、優しく、気が利いて、落ち着いた方でした。積極的にコミュニケーションをとってくれたので、子どもたちも楽しかったようです。本当にかわいらしい方でした。
- ・ ジェシーはコミュニケーションがすばらしく、6月22日の夜、娘の友達を呼んでバーベキューをやったのですが、7人の女の子を相手に一人で笑わせておりました。ものおじしない性格なので、女の子にもてました。

Q4. 滞在期間中はどこへ連れていきましたか？

- ・ 博物館・美術館、サンエーメインプレイス、金城町石ダタミ、海中道路、ハーバービュー和食バイキング
- ・ 子ども同士で北谷町の美浜へ朝10時~夕方、沖尚の国際化クラスへ放課後~19時まで交流
- ・ 座喜味城跡、むら咲きむら、ぱいかじ(夕食)
- ・ 国際通り、北谷町美浜、サンエー、ジャスコ、カラオケ

ホストファミリーアンケート

Q5. 今回、平日は県のプログラムへ参加していましたが、ホストファミリーとして平日でも完全に受入可能(平日もホストファミリーが参加者を案内すること)ですか？

- いいえ(4名)、土日だったら可能(1名)、はい(10日間の滞在中 1~2日)

Q6. 次回以降についても、ホームステイ受入が可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録してもいいですか？

- (英語があまりしゃべれないのですが)よろしくお願いします。
- 良いですが、受入可能かは、その時や時期の状況にもよります。積極的にホストファミリーは続けたいです。
- はい
- 良い(受入は、ジョン君のような“子ども”がいいと思う)
- 登録しても良いのですが、娘も来年学校卒業しますので、短期間でしたら大丈夫ですが、子ども同士の家庭(子どもと年齢の近い)が喜ばれるのかなと思いました。

Q7. その他、県に対する要望があれば、書いてください。

- 食事が口に合うのかどうか気になりました。
- 今回最も心配したことは、食事作りだった(普段から料理作りがうまくないので)主人はいつも通りでいいと言うのだが、そうはいかない！客を迎えるのだから、それで参考になるような一週間の朝・夕食のメニューを示してくれたら助かります。
- 良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

お世話になったみなさま

受入期間中には以下の様々な団体、企業、学校関係のみなさまにも大変お世話になりました。みなさまのご協力とご理解に心より感謝申し上げます。みなさまとの実り多き時間が、参加者の沖縄への理解と絆を深める貴重な機会となりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。みなさまと参加者のつながりがこれからも続いていくことを心より願っております。

～お世話になった団体・学校関係者の皆様～

- ・ 沖縄県立那覇西高等学校

受入前の出前授業(沖縄移民)と、参加者の体験授業の受入と交流プログラムを実施して頂きました。

- ・ あまわり浪漫の会

参加者の沖縄文化体験において、「肝高の阿麻和利」の紹介、踊りの練習、披露とメンバーとの交流会をして頂きました。修了式でも、参加者と一緒に踊って頂き盛り上げてくれました。

- ・ 命を守る会

沖縄の社会学習において、基地問題の現状を説明して頂きました。またポートにも乗り、辺野古の海を案内して頂きました。

- ・ アメラジアンスクール イン オキナワ

佐喜真美術館での平和のワークショップで、中学生の授業と一緒に参加させて頂きました。

～お世話になった施設・企業の皆様～

- ・ 伊江島観光協会の皆様

伊江島での民家体験を実施して頂きました。ホームステイでは知念スーシーさん一家に受け入れて頂き、地元の人々との交流と伊江島案内をしてくださいました。

- ・ 反戦平和資料館「ヌチドゥ宝の家」 謝花悦子様

資料館の見学と、平和・戦争についての講話をして頂きました。

- ・ 南部観光総合案内センター

系数アブチラガマ見学の際のガイド案内、沖縄戦についてお話していただきました。

- ・ 佐喜真美術館

平和のワークショップにおいて、施設の見学と「沖縄戦の図」の説明をして頂きました。

- ・ 瑞泉酒造

瑞泉酒造にて工場見学、泡盛の試飲をさせて頂きました。



空港にてお迎え ケイトリン&ジョン



空港にてお迎え ジェシー



参事監と記念撮影



ポスター作り もくもくと作業中



歓迎会 県庁の方とおしゃべり



那覇西高校での体験授業



紅型に挑戦!



肝高の阿麻和利 ダンス練習

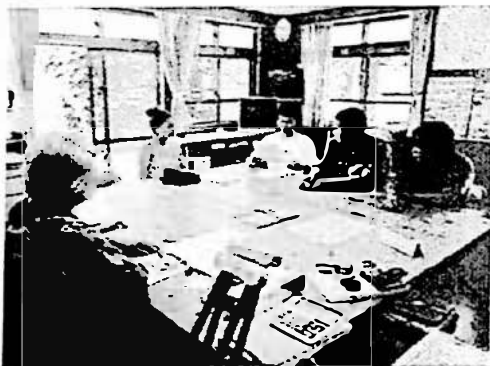
思い出のアルバム



肝高の阿麻和利での集合写真



これから伊江島へ出発～



反戦平和資料館「ヌチドゥ宝の家」で



伊江島タッチュー！



辺野古の海の上でガイドさんと



平和へのメッセージを書いているよ



アメリカンスクールの子どもたちと交流



佐喜眞美術館の前で記念撮影

思い出のアルバム



首里城散策



首里城をバックに



首里城のガイドさんと



カフェでランチ



泡盛試飲中



安里屋ユンタを4人でコラボ



ホストファミリーとももうお別れ



仲良し3人組

海外県人会ホームステイ派遣事業 報告

アルゼンチン(ブエノスアイレス) 7名

名前	所属	学年
喜久里 瑛	沖縄国際大学	4
池原 ななえ	琉球大学	3
盛田 みつき	名桜大学	1
太田 利奈	那覇西高等学校	2
福井 紫織	宮古高等学校	2
山城 里沙	コザ高等学校	2
大里 洋人	与勝高等学校	1

宮城 康一郎	沖縄県交流推進課	引率
--------	----------	----

派遣日程・活動日誌

☆アルゼンチン・ブエノスアイレス☆

1日目:8月16日(月)

16 de Agosto (Lunes)

09:30 那覇空港国内線ターミナル2階ウェルカムホール集合

※ 出発式

※ JALカウンターで搭乗手続き(パスポート&チケット提示)

11:50 那覇発 JAL3098 便にて成田へ

14:00 成田着 荷物受取、出国審査

15:55 成田発 コンチネンタル航空6便にてヒューストンへ

13:50 ヒューストン着

※ 入国審査、出国審査

21:05 ヒューストン発

活動日誌

今日からいよいよアルゼンチンの旅に出発した！出発式は盛大にやるとは思っていなくて、びっくりした。いっぱいの人に「頑張ってきてね」と言われたから、その期待に応えられるように頑張ろうと思った。

2日目:8月17日(火)

17 de Agosto (Martes)

09:25 ブエノスアイレス着

各ホームステイ先へ

活動日誌

ホストファミリーの人たちと対面しました。みんなとても歓迎してくれて、とても嬉しかったです。空港から家に向かうときは、移民のことについて話してくれました。「移民は行くもんじゃない！」と言っていたことが強く印象に残っている。とても苦労して移民の人たちは生活していたようだ。

3日目:8月18日(水)

18 de Agosto (Miércoles)

日系新聞社「らぶらた報知」訪問

活動日誌

なぜらぶらた報知という新聞社をつくろうとしたのかということ、平和を求めて移民してきた人たちが、戦争が終わって、沖縄のことが全然わからなかったのも、酒におぼれる人やうつ病になる人が多かったのも、らぶらた報知という日本の状況が分かる日本語の新聞社をつくった。また、らぶらた報知は、ボランティアでやっており、利益目的でやっているのではない。また、情報は、インターネットやNHKなどの短波放送を聞きながら、夜中からその作業をして、記事にする。らぶらた報知で働いている人達に皆に真実を伝えようとする心に深く感動した。ウチナーンチュの良いところを持っていると思った。

沖縄とアルゼンチンとのつながりをもっと必要!!2・3世の次の世代の人とも交流が必要。伝えていくことが大切。

4日目:8月19日(木)	19 de Agosto (Jueves)
終日 ホストファミリーと過ごす	
活動日誌	
Puerto madero の船の中が博物館みたいで、本当に楽しかった！デモを近くで見たのは初めて。	
5日目:8月20日(金)	20 de Agosto (Viernes)
日系チョコレート工場「KOCHI」訪問、コロソ劇場	
活動日誌	
KOCHI 工場長の幸地重雄さんは、一中卒業の9期生で私の大先輩だということを聞いて、嬉しかったし、とても驚いた。私の先輩が海外で大活躍していてとても驚いた。幸地さんは、24歳のときに移民してきた。移民した理由は、平和を求めるためだそう。移民してきてチョコレート工場を営むとかという目的はなかった。やり始めた頃は苦勞し、安定するまでに10年はかかった。しかし、2002年の経済崩壊の時にも安定していた。こうして日系人として成功することはすごいことだと思った。	
6日目:8月21日(土)	21 de Agosto (Sábado)
ブルサコ日本語学校 訪問、歓迎会	
活動日誌	
日本語学校は、最近小さい子供が増えている。日系人の三世や四世の子ども達が通っており、県系人は80%を占めている。デカセギに行って、アルゼンチンに帰ってくる人たちもいる。日系人同士でもスペイン語で話す。今の若い世代が日本への興味が強いんだと感じた。沖縄の事は、エイサーとかを習っている。クラスは、年代とレベルで分けられている。低学年は日本語のビデオ、高学年は、スペイン語のビデオを見ていた。高学年のビデオは、秋葉原とかが日本の事についてのビデオだった。	
日本語学校に行った後、COA で歓迎会をした。父の出身である具志頭村出身の方もいて、話が盛り上がりとても楽しかった。発表や余興もみんなに喜んでもらえてとても嬉しかった。調べたモズクの発表や、エイサーを踊るの恥ずかしかったけど、とても楽しかった。	
7日目:8月22日(日)	22 de Agosto (Domingo)
うるま園 COA 青年部とアサード(アルゼンチン風パーベキュー)、サン・テルモ	
活動日誌	
うるま園はまさしく“これぞウチナーンチュ社会の社交場だ!”という感じだった。どこを飛び交うのもウチナー方言で、とても海外に来たとは思えないものだった。しかもゲートボール、沖縄と変わらないことに驚いた。アサードもおいしかった。	
日曜になると骨董品が売られるサンテルモへ行った。観光客が多くて、道が人でいっぱい全然歩けなかった。町並みは古くて、ヨーロッパ風な感じで見ているだけで楽しかった。	
8日目:8月23日(月)	23 de Agosto (Lunes)
タンゴレッスン、ミーティング(学びの確認等)	

活動日誌

タンゴはすごく魅力的だった。エレガントに見せるために、動きがとても洗練されていて、すごくきれいだった。その時知り合ったしんじさんにアルゼンチンに住むための色々なこと(お金やビザ、住居、スペイン語講座など)を教わった。本当にアルゼンチンに戻ってこようと強く思った。その後、みんなで振り返りをして、なんだかすごく充実した時間が得られた。考えていることが共有できてよかった。

【メモ】

移民には2種類あって、1つは、JICAがアルゼンチンから土地を買って、移民する人を募集したということ。でも、冷害などの多い、植物が育ちにくい土地。2つ目は、コロンビアなどからアンデス山脈を越えての移民。移民は成功した人より、失敗した人の方が多い。

9日目:8月24日(火)

24 de Agosto (Martes)

ルハン大聖堂、安次富花卉農園見学

活動日誌

ルハン大聖堂は、古くからある境界で、中には日本で見ることのできない世界が広がっていた。安次富さんの花卉農園へ行った。シクラメンを育てていて、交配などの作業も一つ一つ手で行っている。安次富さんは花卉栽培を46年もやっている。昼食を安次富さんのところで食べた後、女性で成功したスサナさんと玉城アルフレドさんのところへ行った。

平良スサナさん・玉城アルフレドさん家族。広い土地にビニールハウスといったものを持っていて、一つ一つ受粉させるのが手作業であることも珍しいと感じた。正月料理やおいしいワイン、そして手土産までもらった。スサナさんは女性として、家庭も仕事もバリバリにこなせている素晴らしい人だった。

私達がこうやって今見ている移民はごく一部。成功した人たちの話を聞いているだけで、失敗した人たちの話は聞いていない。これを聞かないと移民について知ったとは言いきれない。移民に失敗した1世の人が暮らせるように施設を買って、生活を助けている。また、援助金的なものを出して、成功するように促している。昨日書いたおばあちゃんもこの施設みたいなのところにすんでいる。

10日目:8月25日(水)

25 de Agosto (Miércoles)

エピータ博物館、レコレタ墓地、レティーロ駅構内、ボカ地区見学、COA

活動日誌

COAで大宜味村人会の人たちに会った。大宜味村人会は本当にここはアルゼンチンか?と思うほど、心が休まる場所だった。ほとんど塩屋の方だったけど、私達のために集まりを開いてくれて本当に嬉しかった。75周年パーティに行きたい!

11日目:8月26日(木)

26 de Agosto (Jueves)

終日 ホストファミリーと過ごす

活動日誌

「老人施設の工事現場に行くけど行く？」という話を受けて、同行させてもらった。場所は COA 近くで、広さは普通の建物くらいだった。4 階建て。現場監督もボランティアらしい。誰かのためにこんなに頑張れることはすごくかっこいいと感じた。

ホストである屋宜さんに世界でも有名なラプラタ博物館へ連れて行ってもらった。そこには、アルゼンチン 200 年の歴史が語られ、すごいところだった。アルゼンチンに生息する(あるいはしてた)動物の剥製が多く展示されていた。博物館の後は、ラプラタ川に連れて行ってもらった。ラプラタ川は広く、向こう側も見えないほど広くて海だと思った。ラプラタ川を見て、世界は広いということを実感できた。

12 日目: 8 月 27 日(金)

27 de Agosto (Viernes)

* 2 時間前までに空港到着

* 搭乗手続き

20:40 ブエノスアイレス発 コンチネンタル航空 52 便にてヒューストンへ

活動日誌

空港でミユキのお父さんに感謝の気持ちを伝えた。言葉にならないくらいのお礼の気持ちが大きかった。たぶん伝わっていないかもしれない。その時、「なんで私達にここまでやってくれるの？私は何もできないし、逆に負担になることが沢山だったでしょう？」と聞いた。すると、お父さんは、「そんなことはないよ。同じウチナーンチュだから、ここまでするのは当たり前さー。」と言ってくれた。彼は普段深く県人会と関わっていることはないだろうし、日本語もよく話すわけではない。生活もほとんどアルゼンチン風だと思う。でも、彼が沖縄のことを思っていることがすごく伝わって、胸が熱くなった。物理的には離れていても、心の距離はとてと沖縄と近いと思った。とてもありがち気持ちでたくさんになった。一番忘れられない出来事だった。

13 日目: 8 月 28 日(土)

28 de Agosto (Sábado)

05:15 ヒューストン着

※ 入国審査、出国審査

10:50 ヒューストン発 コンチネンタル航空7便にて成田へ

14 日目: 8 月 29 日(日)

29 de Agosto (Domingo)

14:20 成田着

※ 荷物受取、入国審査、荷物預け

19:25 成田発 JAL3095 便にて那覇空港へ

22:35 那覇着

活動日誌

実際にアルゼンチンに行って、見方が少し変わったように思える。確かに貧しさや政治の不安定さ、治安の悪さは感じられたが、それぞれが自分のやり方で人生を楽しんでいたように見えたからだ。給料が安くて、その月を生きるだけでほとんどお金が消えてしまいそうでも、カフェテリアに行ったり、散歩をして人生を楽しんでいるような雰囲気だった。きっと自殺が多くて、CM で自殺防止キャンペーンをしているような日本よりは、生きやすい国なのかもしれない。今回のアルゼンチンにいた時間は十分ではなかった。もっとアルゼンチンを知るために、また行ってみようと思決意した。

成田について親に電話してみたら、とても喜んでいて、自分はその声を聞いてなんだかほっとした。明日から学校で、なんだか現実に戻ってきたかんじだった。「もう帰って来てしまったのかあ」と思ったけど、昨日までの経験をムダにしないように、明日から頑張っていきたい。

事前事後研修

派遣までの日程確認、参加者同士の連帯感を深める、参加者の意識を高めることを目的に、以下の研修を行った。

◇ 第1回 オリエンテーション

日時:2010年7月10日(土)10:00~17:00

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容:保護者説明会、本事業目的の確認、沖縄移民の歴史、参加者同士のコミュニケーション

配布資料:研修資料(保護者用、参加者用)

【事業概要、ホームステイ日程、ホームステイ心構え、沖縄移民について、派遣地情報、参加者一覧、事前学習調べノート(伝えたい沖縄のこと、現地について調べたこと)他】

◇ 第2回 オリエンテーション

日時:2010年7月24日(土)10:00~17:00

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容:県費留学生よりアルゼンチンの日系人・移民について、沖縄についての調べ学習

講師:内間屋比久マリエライネス、前外間 エリカ

◇ 第3回 オリエンテーション

日時:2010年8月7日(土)10:00~16:30

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容:派遣地情報・語学研修、OB/OG 体験談、最終確認

講師:内間屋比久マリエライネス、前外間 エリカ

OB・OG:2009年度参加者→喜屋武春菜、天久真奈帆、竹田悠人、久高愛夏、花城里和子

配布資料:研修資料(参加者用)

【活動日誌、スペイン語会話、持ち物確認他】

◇ 報告会

帰国後、事前研修からホームステイ派遣中までのことを振り返り、参加者より体験報告してもらった。

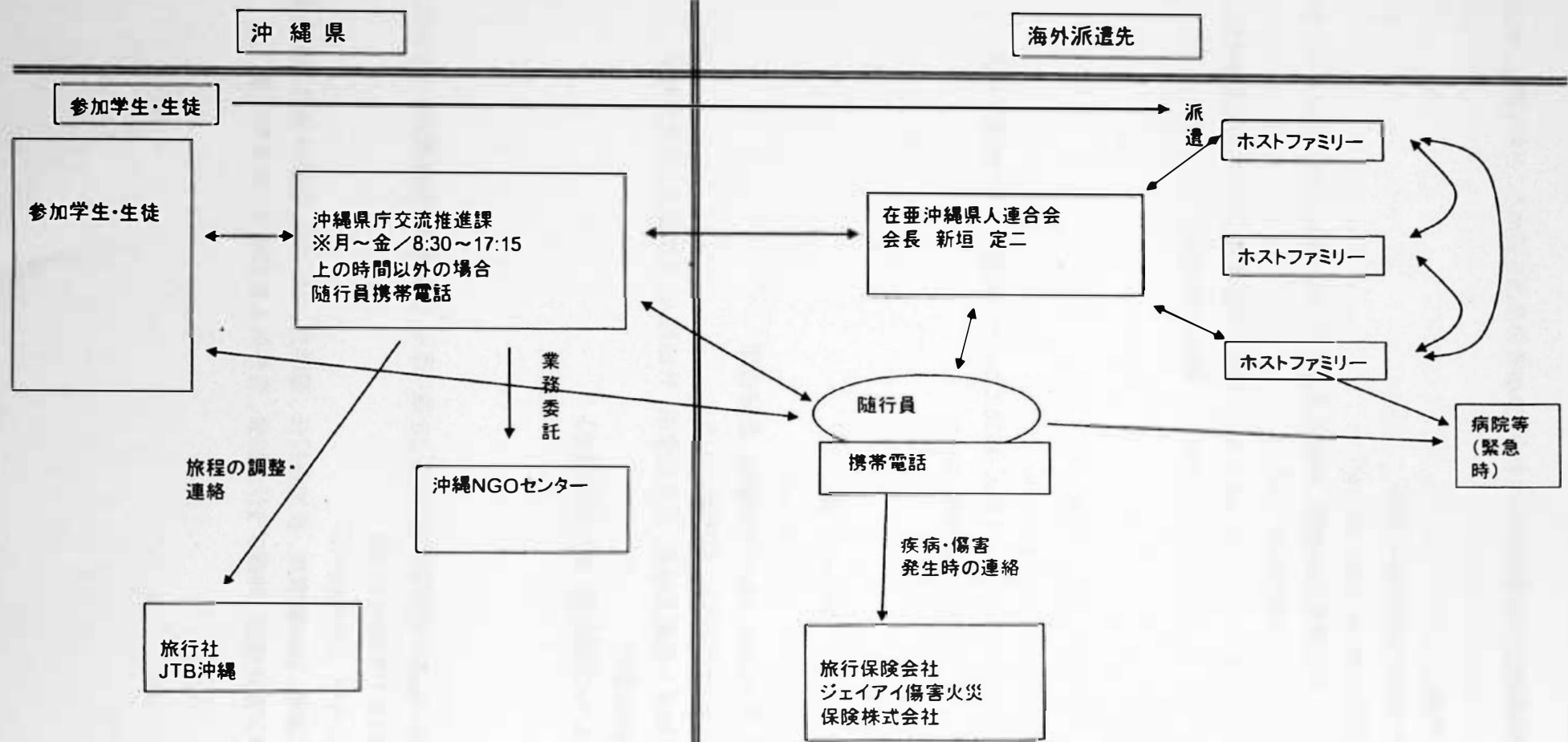
日時:2010年9月11日(土)13:00~15:00

場所:JICA 沖縄国際センター ニライホール

参加者:ホームステイ参加者、参加者家族、参加者担任、留学生、OB・OG、在亜沖縄県人連合会、沖縄アルゼンチン友好協会、沖縄ブラジル協会、海外県人会関係者、事業関係者

海外県人会ホームステイ派遣事業 (緊急)連絡体制(アルゼンチン)

実施体制 (派遣)



【沖縄からアルゼンチン】

日中: 参加者家庭→沖縄県庁交流推進課→随行員(宮城)→参加者
 夜間: 参加者家庭→随行員(宮城)→参加者
 * 日中、夜間は沖縄に合わせます。

【アルゼンチンから沖縄】

日中: 随行員(宮城)→沖縄県庁交流推進課→参加者家庭
 夜間: 随行員(宮城)→参加者家庭

「ホームステイ先の生活から見たアルゼンチンの沖縄県人社会」



沖縄国際大学 総合文化学部 社会文化学科 4年 喜久里 瑛

はじめに

今回、8月16日から29日までの日程で海外県人会ホームステイ派遣事業(アルゼンチン派遣)が実施された。この研修によって、普段身近に感じる事のない海外のウチナーンチュ社会に目を向け、実際に体感することによって、書面だけでは得ることのできないものを感じることができた。例えば、方言を含めた生活(食事や躰、近所との付き合いなど)の些細な光景に、現在沖縄県に住む沖縄の人よりも“昔からの沖縄”を感じさせる場面は多い。また、沖縄に対する思いや考え方、日本と沖縄との捉え方には世代や沖縄で過ごした年月などによって違いがあるように感じられる。

私はこの報告書を書くにあたって、アルゼンチンでの滞在中に一番多く交流(会話)をしたホームステイ先の家族との生活と、ほかの関係者との関わりから見えたアルゼンチンの沖縄県人社会の一部をまとめたいと考える。

ホームステイ先の家族

私が滞在中にお世話になったのは、比嘉照夫・昌子さん家族である。長女のナンシーをはじめ、次女のクラウディア、長男のオビ、三女のシンティアの4人の子どもがいる。長女ナンシーのみ、沖縄へ滞在したことがあり、日本語を流暢にしゃべることができるのも、彼女のみである(しかし、全員日本語学校に通っている)。家では、日本語(方言)とカステリヤ語(スペイン語)がごっちゃになった会話がされており、そのためか、子どもたちも私の話す日本語の大体を理解していた。

また、ここの家庭では、恋人は家族同然の付き合いをしており、一緒に家でご飯を食べる機会が何度かあった。面白いことに、私のホームステイ先を含めたほとんどの家庭の子どもたちの恋人は、日系人か県系人の2世や3世である。偶然かもしれないが、今回交流した人の中では恋人や結婚相手がアルゼンチン人の人という人とは出会うことがなかった。

移民の経緯(きっかけ)

照夫さんは、1949年生まれで中城村出身である。先に移民としてアルゼンチンに移住していた叔父さんを頼りに、1967年に17歳でアルゼンチンへ移民した最後の呼び寄せ移民の一人である。当時、沖縄では戦後すぐでもあったため、物が不足しており、移民している叔父や親せきからの物資が家計の助けとなっていたという。そのため、6人兄弟(男4名・女2名)の一番上でもあることから、双子の弟とともに物資の豊富なアルゼンチンへ渡ったそうである。

昌子さんは、1951年生まれである。元々ポリビア移民の1世で、幼少期(10歳ごろ)にポリビアで農業を行いながら過ごす、とても厳しい土地環境や労働環境であったという。ポリビアで、日本から来たシスターに勉強を教えてもらっていた。アルゼンチンでは勉強ができると思い、18歳の時に家族でアルゼンチンへ移ったそうである。しかし、家庭の事情(兄弟が、男5名・女1名)で学校には通えず、家の仕事を手伝ったという。

二人の話に共通して出てきた話題がある。それは、アルゼンチンには「金の生る木がある」という噂話である。誰がはじめに言ったかは不明だが、港に着くと地面にコインが落ちていくことが多く、昔から食べ物が豊富であったため、安定した生活を送れる国として評判が高かったため出た話のようである。しかし、この噂を聞いてブラジルやポリビアなどから移住してくる人たちも多かったという。そのためか、今回ホームステイを受け入れてくれた人の中にも多くのポリビア移民1世の方が見受けられた。

仕事の経緯

比嘉さん家族は、現在でも夫婦で洗濯屋を営んでいる。元々、照夫さんも昌子さんもアルゼンチンに来てからすぐに洗濯屋を営んでいた(働いていた)ということである。当時のアルゼンチン移民の人たちの多くが、洗濯屋や花卉農園などを営んでいたことから、始めやすい仕事だったのかもしれない。照夫さんは、呼び寄せ 1 世ということもあるためか、「1 世の人たちが苦勞した分、自分たちには土台ができていて、苦勞はしなかった」と話す。

2 世たちの人たちに望むこと・力を入れていること

私から見て、アルゼンチンの沖縄県人社会の 1 世の人たちは、かなり教育熱心に見受けられた。私のホームステイ先で 15 歳の末っ子である三女は、私立学校に通っており、英語の塾や日本語学校、兄弟からの家庭教師を受けるなど、忙しそうである。また、ほかの兄弟たちも、大学終了後も専門性のある様々な資格をとるために試験勉強に多くの時間を費やしている。特に、昌子さんは常に「勉強や教育はとても大切」「資格を持っていれば安定した就職先に就くことができる」と話していたのが印象的で子どもたちには安定した生活を強く願っている。しかし、教育への力の入れようはほかの家庭の子どもたちの職業を見ても感じられる。

また、日本語学校に通わせてまで日本文化や日本語を次世代の子どもたちに教えていることも気になった。しかし、学校に通う 3 世や 4 世の人たちは沖縄よりも日本を意識しており、沖縄人意識の強い人たちと日本人意識の強い人たちの二極化された社会があるように感じられた。

最後に

沖縄の食文化(タンナファクルーやせんべいなど)を現地の食材を工夫して作っているところや、アルゼンチン人を「外人」と呼ぶことへの驚きなど、多くの発見がある研修だった。

私は遠い昔の話で 1 世の方も少ないかと思っていた。実際には呼び寄せ 1 世の人を含め、多くの 1 世の方がご健在だった。しかし、時代はもう 2 世や 3 世の世代に入り始めており、海外のウチナンチュ社会は過渡期であるように思う。そういった点からも、今回この事業に参加してとてもよかったと考える。



Mi amor Argentina

琉球大学 法文学部 国際言語文化学科 3 年 池原ななえ

はじめに

まず私の意見を述べる前に、沖縄県、在亜沖縄県人連合会、友人たち、家族、お世話になったすべてのの方々にお礼を申し上げます。今回の体験は私にとって非常に貴重であり、得られたものは何物にも代えることができないものばかりでした。特に私たちを温かく迎えてくださったホストファミリーや県人会員の皆様、時間をさいてツアーに同行してくださった県人会婦人部、青年部のメンバー達のことを思い出すと、たくさんの感謝と親しみの気持ちで胸がいっぱいになります。そしてこのような素晴らしい機会を与えてくださった、沖縄県や在亜沖縄県人連合会に心からとても感謝をしています。

ホームステイ派遣事業を振り返って

今回の派遣事業で私はかねてから興味があった県人社会について、直接触れることができ満足している。特に私の目的であった移民一世のお話を伺えたことはとても貴重であった。私がインタビューをしたほとんどは、沖縄戦後アルゼンチンへ渡り農業を生業としている方や、農業で賃金をためた後、都市部のブエノスアイレスに出てクリーニングなどのお店を開いたの方々である。それぞれ独立して生活していくようになるまで、大変苦勞されていた。農業では天候の悪化や塩害で何度も失敗し、JICA などの援助を受けたこともあるようだった。また、都市部での店の経営はアルゼンチンの政策や急激なインフレによって、厳しい状況に立たされたようだ。

今回私が話を伺うことができた方々は、アルゼンチンにいる移民をした一世の中のほんの一部である。必ずし

もすべての人が前記のようではないし、失敗をして夢破れて沖縄に帰った方もいると聞く。私はまだ移民一世についてすべてを知ることができたわけではない。しかし限られた期間ではあったが、彼らの興味深い体験を聞くことができ私は恵まれていた。これからもより多くの一世に出会い、彼らの体験を伺いたい。

また派遣期間中、私達は4つの日系企業と1つの日本語学校を訪問させていただいた。どれも現地によくなじんでおり、周りから高い評価を得ているようだ。何度か利用することがあった在亜沖縄県人連合会館には、日本語、空手、書道など日本文化を学べるクラスがあり、日系人だけでなくアルゼンチン人も多く受講しているようだ。このような状況から、在亜日系人たちは引き上げた先人達の努力を感じ、私は自分自身をウチナンチュであり、日本人であることを誇りに思った。

今後のウチナンチュネットワークについて

これからは今まで台頭していた移民一世に代わり、二世や三世と沖縄が交流する時代である。しかし、最近ではウチナンチュネットワークを維持する目的が曖昧になっていると私は思う。なぜならこのつながりを何にどうやって活かすことができるか、まだ納得できる答えは出ていないからだ。

私はウチナンチュネットワークを教育の分野で利用したい。なぜなら、子ども達に教えることでもっと南米と沖縄の距離が縮まると思うからだ。今の日本ではアルゼンチンやブラジルなどの南米の国々は、距離的にも認識的にも遠い国だ。しかし、南米には他のどの地域よりもたくさんのウチナンチュが存在し、いくつかの県人会が会館を所有し、その中にはコロニーを築いているところも存在する。近年では数多くの日系人がデカセギのために日本にやってくる。地球の反対側に住むウチナンチュを知ることが、南米のことを知るきっかけになればと私は思う。知名度が高くなれば、スペイン語やポルトガル語が広まり、より世界のウチナンチュとの距離が縮まるはずだ。

また、ウチナンチュネットワークの活用方法は無限に広がっていくと私は考えている。それは時代や世界情勢は変化し続け、同様に私達のネットワークの目的は変わり続けるからだ。しかし関係を保ち続けたいという私達の想いはいつの時代も普遍である。私は世界中に同じウチナンチュの友達がいるという、素敵な体験を次の世代にも受け継いでいきたいと強く想っている。

おわりに

最後になるが、今回の事業で私は多くのことを学び、この貴重な体験を分かち合える友人たちとも出会えた。それぞれ別の道を歩んでいるが、来年の第5回世界のウチナンチュ大会ではまた集い、ぜひ今回の体験を公共の場で披露したい。具体的には今までのホームステイ参加者でブースを設け、訪問した国々の紹介をしたい。なるべくたくさんの人にアルゼンチンや世界のウチナンチュについて知ってもらうことが、私ができる今回の事業の事後活動であると私は考えている。そしてホームステイ事業の知名度を高め、今後の若い世代間のウチナンチュネットワークをより広げ、何らかの形で沖縄社会に貢献していきたい。

いっぺーにふえーで一びる。



県人会ホームステイのメリット

名桜大学 人間健康学部 看護学科 1年 盛田みつき

今回この事業を通して様々なことを学びました。最初この事業に参加する前は、異国というものの自体に興味があり、応募しましたがアルゼンチンへ行く前に日系社会の様々な事を学習し、日系社会の現状や問題を現地でしか学ぶことのできない貴重なものだと感じ、アルゼンチンへ行って何を学ぶか、私にとってどういう影響を受けるのか、またこの事業で交流した人たちにどのような影響を

与えているのかという自分の中でのテーマを持ってこの事業に参加することができました。

まず、アルゼンチンの日系人と交流して気づいたことが、そこには沖縄の文化が根付いていることです。私達以上に沖縄の文化を大切に、きれいなうちなーぐちを使っていました。一世の方達だけでなく、二世、三世の若者達も自ら沖縄の文化、日本の文化に興味を持ち、積極的に参加していました。沖縄の反対側にいる人たちが、こんなにも沖縄の文化を大切に、沖縄のことを知ろうとしていることにとても感動しました。

一世の世代が終わって、日本や沖縄とのつながりが薄くなっている今、母島の若者と日系人の若者が交流することで、ネットワークが形成でき、つながりを持つことによって、アルゼンチンの日系社会を知ることができ、また日系人にとっては、日本の若者を知ること、似ている文化や変わった文化に接することができるようになります。この事業も日系人にとって欠かせない大切なものだと感じました。また、日系人だけではなく、私もこの事業に参加することで、様々な考えを取り入れることができました。また、アルゼンチンで沖縄の独特の文化である「ユイマール＝助け合い」を感じることができました。うちなーんちゅの素敵な一面を見ることで、改めて沖縄の文化の大切さに気づくことが出来ました。

私はこの事業を通して、日系人と母島の人とが交流する重要性を知ることができました。また、自分の故郷である沖縄に誇りを持つことができました。

この事業で学んだことを今後活かしたいです。



アルゼンチンの県人会と交流を通して
那覇西高校 2年 太田利奈

私は、この旅で一番知りたかったのは移民した人の今の生活についてです。移民はとても苦労したという話を聞いたので、どんな生活なのか気になったからです。私は生活費だけでいっぱい生活の予想していました。しかし、日系人の生活を見てみるとそんな様子はどこにもなかったです。実際、話を聞いてみると休みの日には遠くにゲートボールをしに行ったり、旅行に行ったりすると言っていて、予想とは全然違いました。こんな娯楽ができるのも今まで苦労したからだと思います。私のホームステイ先の家族はクリーニング屋を営んでいました。そのお店には若い人からお年寄りまで色々な人が来店していました。周りからの評判も良いそうです。それは日本人は手先が器用で丁寧というイメージがあるからだそうです。このイメージがついたのも日系人のおかげだと思います。もし移民した人の中で仕事をさぼっていた人や適当にやる人がいたなら、日本人は嫌われていたかもしれません。日系人は本当に頑張ったんだと思いました。

今回、話を聞いた人の半分以上は「移民してよかった」と言っていました。その理由は、沖縄戦のような戦争がなく平和だということと、休日が多いのでいろんな所に旅行に行けるという理由でした。私は移民して後悔した人のほうが多いと思いました。なので、この結果には驚きました。私がこの旅で一番印象に残ったのは、ほとんどの日系人が日本や沖縄の事に興味があるということです。若い人は、日本のアニメ、ドラマ、歌手が好きな人が多かったです。二世、三世の中には琉球國祭太鼓や三線を習っている人もいました。アルゼンチンにいても沖縄のことに興味を持ってきてとても嬉しかったです。今、日系人の中でも日本語学校に行かなくて全然喋れない人が多くなっているそうです。私はこれから先、一世が少なくなっていくと沖縄との関わりも薄くなっていくと思います。それを防ぐためにもこの交流事業は大切だと思います。もし、この企画がなかったら私達は今回出会った人たちと一生会わなかったかもしれません。また、アルゼンチン移民の事を知ったのもこの企画のおかげです。

ホームステイさせてもらった家族や今回関わった人、すべての人たちが優しくしてくれました。私達のために歓迎会を開いてくれたり、帰る時には送別会も開いてもらいとても嬉しかったです。言葉が通じなかった時はもっとスペイン語を勉強すればよかったと後悔しました。ホームステイは初めてで不安だったけど、両親ともに日本語がペラペラだったので安心しました。毎日とても楽しく過ごせたのもホストファミリーのおかげだと思います。

この旅は、一日一日学ぶことがありとても充実していました。この体験を活かして、アルゼンチンと沖縄を繋ぐ架け橋となれるように頑張ります。この企画に関わった人すべての人に感謝します。Muchas Gracias !



ホームステイを通して
宮古高校 2年 福井 紫織

今回、このホームステイを通して私は、ウチナーンチュの1世、2世の方とたくさん交流することが出来ました。

移民についてなにも知らなかった私が、県人会の方や、ホストファミリーをはじめとするウチナーンチュの方から移民当時の話を聞く事で、移民についての知識が増えたと共に、移民への興味、関心を持つようになりました。また、自分自身が今まで、どれほど移民について知らなかったのかと実感することができました。そして、私は、ウチナーンチュの1世、2世の方と交流した中で気付いたことがありました。それは、皆沖縄の事が好きだということです。皆笑顔で、沖縄へ行った時の話などをしてくれ、私が沖縄の話をすると興味深く真剣に聞いてくれました。沖縄の裏側の遠い遠いアルゼンチンでも、沖縄の文化を継いでいき、後世に伝え、沖縄のことが好きで笑顔で話してくれるので、改めて、沖縄は良いところなんだと実感しました。さらに、アルゼンチンでは、沖縄から来たということで、皆が私たちのことを温かく迎えてくれた事が、とても嬉しかったです。

ホームステイでは、日常の高校生活では出来ない事や、気付かないようなことを体験させてもらいました。また、出会いは一期一会というので、このホームステイ事業を通して出会った全ての方との出会いを大切にしていきたいと思います。私は、県人会の方達には、とても親切にしてもらったのにも関わらず、何もしてあげられなかったように感じるので、将来、このホームステイ事業での経験を生かし、沖縄とアルゼンチンとの間で、何か活動ができればと思います。

私は今回、このホームステイ事業に参加することが出来て、とても良かったです。宮城さんや、金城さん、ホームステイのメンバー、そして、アルゼンチンで関わった全ての方に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



アルゼンチンの県人会との交流を通して
コザ高校 2年 山城 里沙

沖縄からアルゼンチンへ出発してつくまでにやっぱりアルゼンチンって遠い国だなと思いました。アルゼンチンに着くと、現地の県人会の方達が出迎えてくれて、ホームステイ先のファミリーの家に行きました。家には掛け軸など日本風なモノがたくさんあり、私はそういうものがないと想っていたので、びっくりしました。ホストファミリーの方の話や現地の人たちの話を聞くと、やっぱり大変な苦勞をして生活してきたみたいでした。でも、幸地さんみたいにチョコレート工場を経営し成功した人や、安次富さんのように花卉農園をして花の持ちがいいと認められている人もいて、苦勞して頑張ってきたんだなと思いました。ブルサコ日本語学校での若い人たちとの交流では、アニメやドラマなど日本に興味がある子がたく

さんいました。質問の答えでは、沖縄についての回答があまりなかったので、琉球舞踊や基地問題など沖縄の事に関しても、もうちょっと興味を持ってくれたらいいなと思いました。日系人以外の現地の方達もCOAで空手教室や日本語教室などたくさんの教室があり興味を持っていました。

COAでの歓迎会の時は、皆さんが歓迎してくれて嬉しかったです。同じうるま市の島人の方もいて大歓迎してくれました。ホストファミリーのお母さんも、今までに会ったことがない親戚の人でも始めてあったら、涙が出るくらい嬉しいとっていました。ウチナンチュってだけで親近感があるし、つながっている感じがしました。青年部の人たちとも交流があって、今の若い世代の流行のこととかも話をしてくれて楽しかったです。

また、ルハン大聖堂やカミュート、オペリスコ、タンゴなどアルゼンチンの芸能なども見て体験して、もっとアルゼンチンに興味が湧きました。10日間という短い間だったけど、県人会のことや移民の歴史を知れて交流でき良かったです。県人会の方が若い世代の交流も必要と言っていたので、学校でも移民のことやこの事業で得た情報などを報告し、みんなに興味を持ってもらい、在亜県人会そして青年部と交流していけたらなと思います。



ホームステイを通して
与勝高校 1年 大里洋人

僕は今回のホームステイでたくさんのことを学ぶことができました。アルゼンチンと日本という地球の反対側に位置している国同士の文化や生活の違い、政治やその状態、様々な問題を見ることができ、「これが日本と違うし、日本ではあまりないことだな」と思うようなことも多々ありました。その見ることのできた違いを、「他の国のことだから」ではなく、「他の国でも」という気持ちを持って考えていけたらなと思いました。

ですが、違うところばかりではなく、似ている部分や、良い意味で違っている部分も多くありました。似ている部分はウチナンチュと話しているように、笑顔で話してくれるし、県人会のみなさんも自分の子どものように接してくれました。県人会の人たちだけではなく、ステイ先の子も達や他のアルゼンチン人の人たちも気さくで優しく、言葉は通じなくても、身振りで通じたし、国の壁はあまり感じませんでした。この誰とでも仲良くできるというのは、沖縄の人たちがみんな仲がいいようなことではないかと思いました。ですが、最近は電子機器の発達で会話が少なくなったり、人との関係が希薄になりつつあるのが日本の現状です。県人会の方々も、「昔はみんな家族みたいだったのにねえ。」とっていました。だからこそ良い意味でアルゼンチンの人たちのコミュニケーションのとり方を学び、変えていくべきだと思いました。

僕はこのステイを通して、沖縄や日本の課題点、アルゼンチンの課題点の両方をみつけたんじゃないかと思います。それは県人会の方々や、引率の宮城さんや一緒に行った先輩達のおかげだと思います。この経験を今後の海外との交流や異文化理解、課題解決に役立てていきたいと思います。本当に良い経験でした。

ホームステイ参加学生・生徒へのアンケート(派遣後)

アンケート数：7 (大学生3名、高校生4名)

Q1. 滞在中、海外のウチナーンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？

(施設見学を通して・ホームステイを通して・県人会との交流を通して・他)

- できた。プログラムの中に日系新聞社や日系企業への訪問が含まれていて、すごく日系社会について知る機会を与えてもらった。また、どこへ行っても温かいところでもてなしてくださって、とても感謝の気持ちでいっぱい。だが、欲を言うと、貧しく暮らすウチナーンチュ達もいるはずなので、彼らの生活にも触れてみたかった。
- 歴史や生活については、施設見学でのインタビューやホームステイ先で深く学ぶことができた。ウチナーンチュネットワークにおいても同様で、加えてCOAの関わりなどからも感じられることは多かった。
- 生活の中にも、日本風のところがたくさん残っていたし、KOCHIとか安次富花卉農園の方とか、移民したウチナーンチュは、すごくがんばっているんだと思った。
- 海外での県系人の努力や、生活を見ることができた。そこから県人の世界に輪を広げたいという強い思いが伝わってきた。
- 海外に住んでいるウチナーンチュの活躍がすごく大きいものだと思った。また、ウチナーンチュ同士で集まりを持ったり、話合いをしたりと、すごく連携していた！！
- 県人会との交流を通し、実際に移民した人たちの苦労した話などを聞きました。若い人たちとの交流が大切だと言っていました。

Q2. 派遣先の地域の方々との交流はできたか？

どのくらい：

どんな形で：

印象に残っている交流について

- 歓迎会での大宜味村人会、浦添出身者との出会い
- City Tourで一緒に参加してくれた青年部の方々
- ホームステイでの夕食、家族みんなで沖縄料理を食べ、色々な話をした。
- 新聞社や日系企業に訪問した際の質疑応答
- COAでの歓迎会での発表
- ブルサコ日本語学校において、中学生の部での相互意見交換
- うるま園でのCOAで合えなかった人たちとの会話
- ホームステイ先での雑談や近所へのあいさつまわり
- うるま園でのアサード
- タンゴレッスン
- 自由行動での観光

Q3. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？

テーマ

- ずっと憧れだった海外ウチナーンチュ社会に触れる。移民一世と移民した当時について話す。日本語教育の様子を探る。

- ・ 県人社会を多方面から見る事、また生活と2世・3世の人々との触れあい。
- ・ たくさんの人と交流する。
- ・ 現地のウチナーンチュの活躍、この事業を通して与える影響
- ・ 移民してどういう事があったのか、文化の違い

多くが達成感を感じていたようだが、「話を聞けば聞くほど、疑問が出てくるが、すべてを消化する時間と体力がなかった。また、県人社会のすべてを見たとはいえないから。」という理由を述べている参加者もいた。

Q4. 出発前に不安に思っていたこと、行ってみても不安が大きくなったり、問題につながったりしましたか？

とくに、不安に思っていたことが大きくなったという意見はなかった。

逆に、アルゼンチンで県系人の方々にもてなしていただいたり、親切にさせていただいたりしたので、今後、どのように恩返しをしていくか、できるのかどうか不安になるという声もあった。

Q5. 事前オリエンテーションは役に立ちましたか？（複数回答可）

語学研修	保護者説明会	沖縄を伝える学習	沖縄移民の歴史	参加者同士のコミュニケーション	派遣力の情報（留学生）
7	4	6	7	7	6

その他

- ・ 踊りの練習や派遣地でのプレゼンテーションの打合せ
- ・ 事前オリエンテーションは役に立ったが、もっと中身の濃いものになればと思う。そのためには、集まる回数を増やしたり、1泊2日とかで寝泊りで話し合えたらいいと思う。
- ・ 留学生との関わりはとても参考となった。発表面でもとてもお世話になった。

Q6. その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか

- ・ アルゼンチンの歴史について。現地で歴史の話や経済、政治について話を聞かせてもらうことが多かったが、予備知識が乏しいため、あまり理解できなかつたり、話を中断させてしまったことがあったため。
- ・ アルゼンチン移民について。大まかにしか学んでいなかったため、発見が多かった。また、大抵の本には失敗した移住者については触れていないので、歴史の影になってしまった人々についても知る必要があると思う。なぜなら、成功下人は少数派でしかないし、失敗し助けを必要としている県系人の支援をしたいから。
- ・ 予備知識としては、事前学習で十分であると考えている。現地では、知識がよりリアルに感じることができるため、学ぶことが多かった。しかし、事前に細かくまで触れてしまうと話してくれている内容を受け流してしまう可能性があると思うため、現状維持でいいと考える。
- ・ 日本語を話せる人がほとんどでしたが、まったく話せない人もいたので、スペイン語をもっと勉強しておけばよかった。

Q7. その他感想、要望・意見などありましたら、書いて下さい。

- ・ COA で開かれていた日本語クラス（上級）のアルゼンチン人と話してみたかった。私達の見たアルゼンチンのごく一部だし、アルゼンチンのウチナーンチュ社会を知るためには、現地の人からどう県系人がとらえられているか知る必要があると思う。また、彼らにも私達ウチナーンチュを知ってもらふことはとても重要だから。
- ・ もっと長くいたかった。たくさんの施設に連れていってくださり、会を開いてくださったり、多くの出会いがあったが、期間が短すぎて、消化できないまま沖縄に戻った気がする。
- ・ 6月!?!に沖縄にやってくる海外からのホームステイ参加者と知り合いになる機会が欲しい。早くから準備ができていいと思う。
- ・ 来年のウチナーンチュ大会で何かやってみたい。ブースを出して、今までのホームステイ事業参加者を集め、国別に紹介をしたり、せっかく機会を与えてくださったので、それを活かせる場所が欲しいです。
- ・ 今回、沖縄県人社会の良いところを多く見せてもらうことができた。また、すべてのスケジュールや生活などの面においても恐れ多いほど気遣ってもらい、本当に感謝感謝の10日間だった。しかし、ホームステイ先で聞かせてもらった老人ホームの件や、今回私達が観ることのできなかつたものも多かったのではないかと考える。欲を言えるのであれば、そういった負（隠しておきたいような）現実や事実も見れる（触れる）ことのできる交流になって欲しいと感じた。
- ・ 毎日がとても楽しい日々でした。またこんな経験ができたらいいなと思いました。
- ・ この事業を通して、自分が少しだけ成長できたと思います。消極的だった自分が、自ら進んで物事に取り組むようになりました！すごく自分のためになったと思います。また、機会があったら参加したいです！！

ホストファミリー・アンケート結果

1. Please write your impression of this year's homestay program (good points, points needing improvement, requests for youth-participants, other thoughts).

Por favor describa su impresión sobre el programa de homestay del presente año (aspectos positivos, áreas por mejorar, peticiones a los jóvenes participantes, otros)

今回のこの事業に対する感想を記述してください(良かった点、改善すべき点、派遣生徒に対して要望したいこと、その他)

- このプログラムは参加者たちの交流を深めるための大変良い機会であります。
- 総合的によかったと思いますが、期間が短すぎて、アルゼンチンの全てを紹介することは難しかったです。
- 文化交流ができて、とてもよかったです。また、参加者たちが南米沖縄移住者の歴史についても興味を持ち、とてもいい経験だったと思います。
- このプログラムはとても良かったので、今後も続くことを願います。
- 改善すべき点：参加者が短い期間でもスペイン語を学ぶ努力をしてほしいです。
- 県費留学生やジュニアスタディーツアーに参加した青年達が積極的に歓迎交流したことを評価したいと思う。今回のホームステイが大変実りあるものであったと実感されているので、この機会を一過性のものとせず、派遣生徒達が交流の架け橋となり、関係を光に構築していくこと、学生間のメール交換など望ましいと考える。
- 日本の現在の状況など話してくれたらいいと思います。

2. Was the time period for this year's homestay program suitable?

• La época de realización del homestay de este año fue apropiada?

今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？

- 学校の授業時間と試験時期と重なり、あまり適当ではなかったけれど、努力して解決しました。
- 実施時期は大丈夫ですが、ホームステイの準備をするために、少なくとも2ヶ月前には連絡していただければ幸いです。
- 特に息子の学校の休みに合わせなくても、私はクリーニング店を営んでいるので、時間的に問題はありませんでした。
- もっと暖かい季節の方がいいと思います。
- ホームステイ実施期間を、こちらの学校の冬休みにあたる8月上旬にあわせてもらえたら学生達も共に行動でき、有意義かと思われる。
- 本当でしたらアルゼンチン国の夏休みシーズン1～2月頃だったらよいと思います。沖縄の学生達も学校の休みにあわせないといけないので、こちらもなんとか。

3. Do you have any thoughts or requests regarding the timing of arrangements between Okinawa Prefecture and Kenjinkais for this year's homestay? (E.g. In order to find local host families, by when do Kenjinkais need to receive information such as the implementation date or the number of youth-participants?)

• Tiene alguna opinión o solicitud con respecto al periodo de coordinación entre la Prefectura de Okinawa y los Kenjinkais sobre el programa de homestay de este año? (Por ejm, para conseguir las

familias anfitrionas locales · Hasta cuándo los kenjinkais necesitan recibir la información de las fechas de homestay o el número de jóvenes participantes?)

今回のホームステイ派遣事業についての県と海外県人会との調整時期について、意見・要望はありますか？(現地でのホストファミリーを確保するため、いつごろまでに実施日、派遣人数などを海外県人会へ知らせる必要があるか など)

- ・ 県人会と調整するために、2-3ヶ月前までの事前連絡が理想です。
- ・ 2ヶ月前までの事前連絡が理想です。
- ・ 私は30日間で十分だと思いますが、子供たちにとってはもう少し準備の時間が必要かもしれません。
- ・ 支障なく実施することができたので、以後も同様の日程でよろしいかと思えます。

4. What are the most important characteristics for youth-participants to have? Please number in order of importance from 1 to 7.

· Cuáles son las cualidades más importantes que deben tener los jóvenes participantes? Por favor enumerarlas por orden de importancia del 1 al 7.

ホームステイ参加者の資質で大切な事は何ですか？以下の()に1~7までの優先順位を書いてください。

Language ability · Habilidad para los idiomas 語学力	6
Ability to teach people about Okinawa · Habilidad para enseñar a los demás sobre Okinawa 沖縄について伝える力	5
Desire to interact with kenjinkai members · Deseo de interactuar con miembros del kenjinkai 県人会員と交流する意欲	4
Active enthusiastic attitude · Actitud activa y entusiasta アクティブで熱心な態度	2
Interest in international exchange / foreign countries 国際交流や外国への関心	2
Interest in doing a homestay - Interés en participar de un homestay ホームステイへの関心	1

その他：Otros

- ・ 優しい心、人を尊重する心を持っていること

5. How was the attitude of your host student toward the daily living and learning aspects of the homestay?

· Cómo fue la actitud del participante que recibió en su casa, con respecto al aprendizaje y a la vida diaria durante el homestay?

今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？(感想を述べてください)

- ・ 前向きな姿勢をとりました。喜んで受け入れました。
- ・ 積極的で熱心な態度で頑張っていました。家族に溶け込み、私たちの言うことに耳を傾け家族のように
- ・ 色々なことに対して前向きに取り組み、日常生活においてもしっかり規律を守っていました。また、スペイン語に非常に興味を持っていて、驚きました。
- ・ アルゼンチンとこの国に住んでいる日系人のことについて知識欲を持ち、もっと積極的に参加すればと思います。
- ・ 県人社会、移住社会について興味を喚起し、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られた。
- ・ とても立派な青年でやったかいがあると思えました。特に平和ガイドサークル活動で活躍する瑛さん

が立派に一般の質問に受け応えて下さいました。

- ・ とてもいい子達でした。

6. May we enter your family in the Host Family Data Bank as family that is able to host homestays next year and in future years?

-Podemos incluir a su familia en el Banco de Datos de Familias Anfitrionas que pueden aceptar participantes de homestays en los próximos años?

次回以降についても、ホームステイ受け入れが可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録しても良いですか？

- ・ 申し訳ありませんが、次回また要望があれば度相談に応じます。
- ・ 喜んで。年に一回このプログラムがあればと思います。
- ・ 大丈夫です。
- ・ 良いです。
- ・ 継続して受け入れていきたいと思います。
- ・ 今のところ返事ができません。

7. Please write any other comments or requests you may have for Okinawa Prefectural Government

Por favor escriba cualquier otro comentario o solicitud que tuviera hacia el Gobierno Prefectural de Okinawa.

その他、県に対する要望等があれば、書いてください。

- ・ 毎年恒例のプログラムにしてほしいです。
- ・ 我々沖縄移住者に気を使い、このような青年たちにとって重要な交流プログラムを企画していただき、誠に感謝いたします。
- ・ 参加者の年齢は20歳から25歳までに制限した方がいいと思います。
- ・ 遠隔の地にて毎年の実施は困難であると理解していますが、可能なかぎりの頻度で継続して行われることを希望します。
- ・ 外国に住む沖縄賢人としていつまでも自分の島のウチナーグチとか伝統文化、とくに良い習慣を子孫にバトン渡していけたらいいなと思う。
- ・ 日本の子ども達に移住した人達の生活をじかに見てもらいたいと思います。



1日目:エセイサ空港

アルゼンチンの国際空港に到着し、ホストファミリーと初対面。



2日目:日系新聞社 らぶらた報知 アルゼンチンにおける移民の歴史と、日系社会の現在について学ぶ。



3日目:プエルト・マデーロ地区

もとは、レンガ造りの倉庫街だったが、今はおしゃれな街と変わっている。県人連合会の青年部の人たちと散策する。

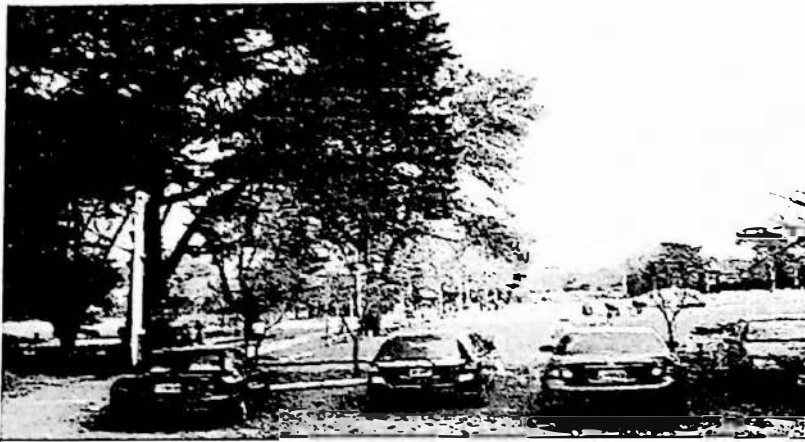


5 日目:チョコレート工場(KOHCH)で、社長の幸地さんより移民の動機やアルゼンチンに来てからの事などをうかがった。



6 日目:ブルサコ日本語学校にて、生徒と交流。





6日目:運動施設「うるま園」 郊外にあるCOAが所有する運動施設。訪問したとき、ゲートボールが行われていた。参加者は、同世代の青年部とバレーやドッジボールで交流を行った。



6日目:歓迎会で、用意して行った沖縄について発表している様子。



7日目:タンゴレッスン
アルゼンチンの文化であるタンゴを習う。



8日目:安次富花卉農園 移民して、46年になる宜野湾市出身の安次富さん。幾度の失敗を重ね花卉農園を成功させている。



9日目:長い歴史を持つルハン大聖堂。



9日目:レコレタ墓地
ブエノスアイレス最古の墓地で、芸術的な墓地として世界でも有名。18世紀のアルゼンチンにおける建築を知る。

ホストファミリーバンク登録県人会

平成22年度 ホストファミリーバンク登録状況

海外県人会

	地域	国	登録県人会名	登録世帯 (2009年度状況)	受入年度 (期間)	受入人数	
1	北米	米国	ハワイ沖縄連合会	6	2007 (7/30~8/7)	8	
					2008 (7/24~8/3)	7	
2			北米沖縄県人会	5	2008 (7/23~8/2)	6	
3			ニューメキシコ沖縄県人会	7	2009 (8/12~8/22)	8	
4			アトランタ沖縄県人会	5	2007 (7/25~8/2)	3	
5			ベンサコーラ沖縄県人会	2			
5			ジャクソンビル沖縄県人会	4			
6		カナダ	バンクーバー沖縄友愛会	8	2009 (8/12~8/22)	10	
7			レスブリッジ沖縄県人会	8	2008 (7/23~8/1)	5	
8		中南米	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	12	2010 (8/17~8/27)	7
9			キューバ	キューバ沖縄友好協会	13		
10			ブラジル	ブラジル沖縄人會	4		
11				カンボグランデ沖縄県人会	15		
12	ボリビア		ボリビア沖縄県人会	1			
13	アジア	マレーシア	マレーシア沖縄県人会	2			
合計				92			

県内ホストファミリー

地域	登録世帯
那覇市	7
宜野湾市	3
沖縄市	1
浦添市	2
糸満市	4
南城市	3
西原町	3
北谷町	1
南風原町	1
与那原町	2
中城村	1
伊江村	1
計	29

受入事業については、3名の若者が沖縄でホームステイを行った。ハワイからの2人は、従姉弟同士であり、沖縄には初めて訪れたということであった。もう1人は、ミシガン州から来たとてもユーモアのある男性であった。3名ともすぐに打ち解け、移動中の車内でも笑いが絶えなかった。

今年度は、移民学習を基礎としながらも、平和学習を多めに取り入れた内容とした。そうしたのは、昨年度、同事業で参加者と読谷のガマ(戦争時の避難壕)を訪れたとき、彼らの眼差しが他の訪問先とは違っていたことが印象的だったからだ。これからも目的に合った上で沖縄での滞在をより印象深いものとするため、内容を引き続き吟味していきたい。

この事業は、参加者が、ホストファミリーの家族はもちろん、多くの県民と接し、触れ合うことができる。10日間という短い期間ではあるが、沖縄と沖縄人を知るとても有意義な事業であると担当者として感じている。

一方、派遣事業では、今回初の南米派遣が実現出来た。過去においても派遣先を北米、南米と応募を行ってきたが、北米には、多くの学校から多くの生徒、学生が応募するのに比べ南米はなかなか思うように集まらなかった。今回は、募集段階から派遣先を南米に絞り込むなど南米派遣の実現に向け取り組んだ。結果、7名の参加者を南米アルゼンチンへ派遣することが出来た。

沖縄からの移動時間は、40時間近くあったが、その分、アルゼンチンで、多くの県人に出会ったときの参加者の感動は一入であったようである。

今年度は、派遣参加者に対する事前研修は、前年度までの2回から3回に増やし、参加者自身の地域や親戚の移民を調べてもらうなど、沖縄の移民の歴史を身近に感じさせ、海外県人社会により興味を持ってもらうことにした。さらに滞在中には、参加者がそれぞれのホストファミリーと過ごす時間を多く取ってもらい、前年度の参加者とホストファミリーの要望を踏まえたプログラムの実施に取り組んだ。

そして、この7名が、遠く離れた地における県人たちの営みに何を感じたか。この報告書から読み取ることが出来ると思われる。

両方の事業の参加者 10 名が、事業を通して世界に広がるウチナーネットワークの意義を考え、今後の人生の活躍に一役買った経験であったことを望む。

最後になりましたが、快くホームステイを引き受けいただきましたホストファミリーの皆様をはじめ、参加者を見守ってくれた関係者の皆様に対し、この場を借りて、感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。(沖縄県観光商工部 交流推進課 宮城康一郎)

今回はアメリカ・オハイオ州とハワイ州からそれぞれ3名の海外県系人子弟がプログラムに参加しました。皆沖縄の文化や芸能、歴史、社会に関心が高くすべてのプログラムへ積極的、意欲的に取り組んでいる姿が印象深く、また沖縄の人々との交流からウチナーンチュとしてつながる絆の強さを改めて実感することができました。

今回の受入プログラムでは、地元地域の人々や同世代の若者との交流にも力を入れ、等身大の沖縄の姿を参加者も感じ、知ることができたと思います。沖縄県立那覇西高等学校の体験授業、若者が地域の文化や芸能を継承しようと活動に取り組んでいる「肝高の阿麻和利」のメンバーとの交流は、お互いが刺激し合える貴重な経験となり、国をつなぐ新たな友情が生まれるきっかけとなったと思います。また、今回初めて伊江島への民家体験も実施しました。伊江島では、地元の温かい人柄に触れ、本島とは異なった歴史、文化、生活を学ぶ機会を作ることができました。参加者を本当の家族のように迎え、受け入れてくれた伊江島の方々に心より感

謝申し上げます。

今回のプログラムでの様々な出会いを通して、参加者たちの沖縄への思いが日々強くなっていくのを感じました。そして、参加者自身がウチナーンチュとしてのアイデンティティを大切にしている姿に感動することも多かったです。たとえ沖縄から離れた土地で暮らしていても、それぞれの地域に残る沖縄の心が世代を超え受け継がれているのだと実感させられました。彼らが世界に広がるウチナーンチュネットワークの架け橋となり、発展への大きな力となることを期待します。

最後になりましたが、今回この受入事業実施にあたり、ご協力頂いたホストファミリーの皆さま、企業、団体、教育機関の皆様へ心より感謝申し上げます。このプログラムが今後もウチナーンチュネットワークを次世代へ繋いでいく機会となりますよう、心より願っております。(沖縄NGOセンター 岸本佳子)

アルゼンチン沖縄県人会の皆さま、そして沖縄の子どもたちを家族の一員のように受け入れてくださったホストファミリーの皆さまのご協力により、本プログラムに参加した7名がとても充実した10日間を過ごすことができ、無事修了することができました。7人の参加者は派遣前より、例年以上に移民の歴史や海外へ渡った沖縄県系人がどのような暮らしをしているのかということに大きな関心がありました。また、お互いが協力しあいながら、事前事後学習、派遣中も互いに学びあっていました。10日間という短期間ではありましたが、県会のみなさんとの交流の中で、多くのことを吸収し、海外を視野に入れた将来のビジョン設定、沖縄について学ぶ意欲、またアルゼンチンをはじめとする海外ウチナーンチュと沖縄のネットワークの担い手として強く意識するようになったように見受けられました。海外と沖縄とのつながりが子ども達にどれだけ豊かな学びを与えることができるのか、本報告書を通してお伝えすることができれば幸いです。

本事業も4年目を終えましたが、今回初めて南米への派遣となりました。参加者数は例年より少なかったものの、派遣後には琉球大学内でも自主的に報告会を企画するなど広がりを見せ始めています。沖縄NGOセンターは、本事業を通して、沖縄と海外とのつながりの大切さを実感した参加者が続く沖縄の子ども達をサポートし、海外県人会、また同世代の県系人とのつながりを考えていく場を形成できればと思います。今後、参加者がこの経験、出会いをどのように活かしていくのか、長いスパンで見守り、応援し、また海外に住むウチナーンチュとのネットワークを広げ深める活動に関わっていきたい所存です。(沖縄NGOセンター 金城さつき)

平成22 (2010) 年度沖縄県ホストファミリーバンク推進事業報告書

発行者 沖縄県観光商工部交流推進課

住 所 〒900-8570 那覇市泉崎1丁目2番2号

電 話 098.(866)2479

FAX 098(866)2765

Email アドレス aa050400@pref.okinawa.jp

<http://www.pref.okinawa.jp/index.html>

制 作 特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター

住 所 〒901-2211 宜野湾市宜野湾3-23-52 1F

電 話 098(892)4758

FAX 098(892)9908

Email アドレス ocn@oki-ngo.or.tv

<http://www.oki-ngo.or.tv>